

どうして鉄道は、 人を惹きつけるのか

RDEフォーラム 2021 ----- 技術だけでは語れない、鉄道の魅力を探る

鉄道の「技術」は日々進化し、安全・便利な移動の未来を想像させてくれます。

いっぽう鉄道には移動の価値以外に、人を惹きつける「不思議な魅力」があることを私たちは知っています。「鉄道ファン」という愛好家ばかりではありません。子どものころからの思いや憧れ、地域社会においても鉄道は愛される存在です。古き時代の鉄道にも心惹かれます。時を超える価値…

いったい何が私たちを惹きつけるのでしょうか。

おそらく鉄道には、何ものにも代えがたい「固有の文化」が潜んでいるのではないかと。

今回は3人のゲストとともに、その魅力のメカニズムを、掘り下げてみたいと思います。



プログラム 開始 14:30～ 終了 17:30 (302号室)

第1部

- キーノートスピーチ 山田 晃三
- パネルディスカッション 名取 紀之 柚原 誠 久野 知美 南井 健治 (進行)

第2部

鉄道車両デザイン研究会 (RDA) プレゼンテーション

第3部

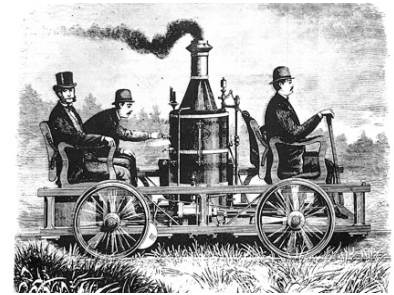
情報交流会

総合司会：久野 知美

「どうして鉄道は、人を惹きつけるのか」

空想から科学へ。そしてふたたび空想のレイルを走る。

- 「技術と文化」の相関から、ふと思う「それは、楽しいことですか？」
- モノをもってコトを成した人類の、異常なる想像力と快感世界。
- 宗教的／経済的／心理的 ----- 「フェティシズム」の諸相と共同幻想。
- 空想（主観）から科学（客観）へ。そしてふたたび空想の海へ。



出典：Victorian Inventions 蒸気車1876 光監社



山田 晃三（やまだこうぞう）

月影デザインコンサルティング 代表。

1979年GKインダストリアルデザイン研究所（現GK Design Group）入所。12年株式会社GKデザイン機構（GK Design Group Inc.）代表取締役社長。相談役を経て現在。日本デザイン振興会（Gマーク）審査員フェロー。日本サインデザイン協会副会長。空間デザイン機構理事。道具学会監事。

パネリスト



鉄道趣味誌は、夢を語れているだろうか？

名取 紀之（なとり のりゆき）

株式会社機芸出版社「鉄道模型趣味」取締役編集長。OFFICE NATORI 代表。

英国Narrow Gauge Railway Society会員。元ネコ・パブリッシング編集局長。

元鉄道保存協会顧問。著書に「森製作所の機関車たち」「編集長敬白」「紀州鉾山専用軌道（島秀雄記念優秀著作賞）」ほか。1957年東京生まれ。



下降窓を下ろして外を見る、そのとき。

柚原 誠（ゆはらまこと）

鉄道友の会副会長。元名古屋鉄道株式会社 代表取締役副社長。

1943年生まれ。67年名古屋鉄道(株)入社。技術部車両課長、運転保安部長、管理部長、そして副社長（鉄道事業本部長）を経て、2009年退任。

鉄道、路面電車に乗って世界を巡る旅が好き。「現地現物主義者」。



私たち、車両限界超えました。

久野 知美（くのともみ）

ホリプロ所属。女子鉄。テレ朝「タモリ倶楽部」、BS日テレ「友近・礼二の妄想トレイン」、NHKラジオ第1「鉄旅・音旅 出発進行！」など鉄道関連の

テレビやイベントに多数出演。国土交通省認定の『日本鉄道賞』選考委員。鉄道貨物協会『鉄道貨物輸送親善大使』。最新刊「東京メトロとファン大研究読本」が発売中！



モデレーター



南井 健治（みないけんじ）

近畿車輛株式会社 営業統括責任者。上席執行役員。

1979年近畿車輛入社。以降国内外の鉄道車両デザインに携わる。関わった車両は多岐にわたるが、特に輸出車両のデザインを多く手掛ける。営業企画部長を経て15年より同社役員。著書に「鉄道車両のデザイン（学研）2012」がある他、雑誌への寄稿多数。日本インダストリアルデザイン協会会員。